

まえがき

Susan Bassnett は 1970 年代の翻訳研究を回想して、次のように書いている。当時、翻訳の研究は応用言語学の小さな一角を占めるに過ぎず、文学研究における位置はさらに小さく、勃興しつつあったカルチュラル・スタディーズには場所すらなかった。deconstruction の時代だというのに、いまだに「正確な翻訳」とか「忠実な翻訳」について語っているという、驚くほど時代遅れの存在で、文学研究のセミナーから翻訳のセミナーに移動することは 20 世紀末から 1930 年代に移動するようなものであった、と。¹

このように Translation Studies (翻訳研究) はヨーロッパにおいても比較的新しい学問分野である。1970 年代後半から徐々にひとつのディシプリンとして分離成立して行き、やがてその大きな分枝として Interpreting Studies (通訳研究) が生まれる。しかし日本の場合はいささか事情が異なる。70 年代には翻訳研究の萌芽すらなく、90 年代入ってようやく孤立した数少ない研究者によって散発的に翻訳研究に該当するような研究が現れるのである。そこにはおよそ 30 年のずれがある。ディシプリンとしてはいまだに確立しておらず、当然、学会も存在しない。2000 年 9 月に日本通訳学会が設立されてから、学会誌『通訳研究』に徐々に翻訳研究の論文が掲載されるようになるが、それはあくまでも通訳研究に付随する翻訳研究であるにすぎなかった。しかし 2005 年に鳥飼玖美子会長をはじめとする学会理事の協力を得て翻訳研究分科会が作られ、ようやく本格的な翻訳研究への足がかりができた。これには立教大学や神戸女学院大学、青山学院大学などいくつかの大学の大学院に学問としての翻訳研究の場ができたことがひとつの要因になっている。

われわれ翻訳研究分科会の活動は始まったばかりであるが、徐々に広がりを見せている。この論文集をつくるきっかけとなったのは、カナダの Association canadienne de traductologie が出している翻訳研究専門誌 *TTR : traduction, terminologie, rédaction* が日本の翻訳研究特集号²を企画したことである。TTR の特集号には Dublin City University の Minako O'Hagan さんの呼びかけに応じて分科会の何人かのメンバーが執筆することになったのだが、この際、日本語でも翻訳研究の論文集を出して日本の翻訳研究の存在をアピールしようではないかということになったのである。その結果がこのささやかな論文集である。

なお本論文集とほぼ同時に刊行された学会誌『通訳研究』6 号の方にも次のような翻訳研究の論文が掲載されている。このなかには当初この論文集に収録を予定していたものもあるが、諸般の事情により学会誌の方に掲載することになったものである。関心のある方はこちらもぜひ参照していただきたい。

¹ Bassnett: The Translation Turn in Cultural Studies, In Bassnett, S. and Lefevere, A. (1998). *Constructing Cultures: Essays on Literary Translation*, Clevedon: Multilingual Matters.

² この特集号の方は編集が遅れているようだが、2007 年中には発行されるものと思われる。

翻訳における「名詞化」という文法的比喩

長沼美香子

翻訳序文に見る明治の英文学翻訳

佐藤美希

Translating Cohesion in Journalistic Texts between Japanese and English

KATORI Yoshikazu

中国清朝における翻訳者および翻訳対象の変遷

永田小絵

中日・日中翻訳における文の「出発点」の選択に関する研究

TENG Minchun

翻訳研究は広大な分野にまたがる **interdiscipline** である。研究対象には文学、思想、歴史、科学、ノンフィクション、児童文学、字幕と吹き替え、マスメディア(放送や新聞など)、マルチメディア(DVD、ゲーム、マンガなど)、ソフトウェア等のローカリゼーション、翻訳メモリー、機械翻訳、翻訳教育など、言語の変換・転移・媒介に関するほとんどあらゆるものが入る。研究方法・アプローチも翻訳研究固有のものに加え、伝統的な文学研究をはじめ比較文学研究、解釈学、言語哲学、言語学諸分野(語用論、FSP、テキスト言語学、選択体系機能文法、認知言語学、コーパス言語学、談話分析、批判的談話分析など)、心理学、認知科学、人類学、社会学、歴史的研究、ポストコロニアル研究、ポストモダニズム、フェミニズム研究などの分野の方法が利用され、各分野で蓄積された研究の富を利用できるのである。

翻訳研究分科会は日本の翻訳研究の受け皿となり、翻訳研究を日本でも学問分野として確立したいと考えている。この論文集はそれに向けての第一歩であり、翻訳研究への招待状である。翻訳研究に関心のある方の参加を歓迎する。

日本通訳学会の活動や加入方法などは日本通訳学会のウェブサイトの入会案内をごらんいただきたい。URLは次の通り。<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jais/index.html>

2006年12月20日

日本通訳学会翻訳研究分科会(担当理事 水野 的)

E-mail: a-mizuno@fa2.so-net.ne.jp